

B 37 スキーパンツの設計に関する研究 ——着用感について——

滋賀女短大 ○奥村 董
京女大家政 福井 弥生

〔目的〕近年、スポーツウェアは、それぞれのスポーツに適した機能性とファッション性が、要求されるようになってきた。スキーパンツには、運動機能性、生理的・心理的快適性などの特性が要求される。前報では、スキーパンツの設計を目的に、滑降時の動的姿勢を考慮した身体寸法について検討を行った。

本報では、スキーパンツの適合性を衣服圧および官能検査により評価し、考察しようとするものである。

〔方法〕衣服圧測定；被験者は成人女子2名とし、資料は、市販のスキーパンツ4種ずつ計8着である。測定に使用したセンサーは、共和電業製PST-2KASFIを、記録計は、San-ei DATA LOGGER 7V13である。測定部位は、直立静止時、膝関節 130° 屈曲時、蹲居時の3姿勢における腹囲前・後、大腿中間囲の前・後・側、殿突点、膝蓋骨中点、計7ヶ所である。官能検査；SD法により衣服圧測定部位の圧感覚を評価し衣服圧との相関をみた。

〔結果〕衣服圧の最も高い部位は蹲居時における膝蓋骨中点の 1115g/cm^2 、次いで殿突点の 438g/cm^2 である。姿勢別では、直立時は全部位とも衣服圧は低い結果となったが、大腿部3ヶ所では、他の部位よりやや高い。蹲居時には、膝蓋骨中点が最も高く、つづいて殿突点、大腿中間囲後面・前面の順である。官能検査では、静止時は部位による感じ方に大きな差はみられなかったが、蹲居時では、圧迫^の感じやすい部位として、膝蓋骨中点、大腿中間後面、腹囲前面があげられる。また衣服圧と官能検査との間に順位相関が認められる。しかし腹囲前面の圧は、7部位中最も低い^が、圧迫感^は比較的強いと感じている。